

糸糸
燃紙
後和
備・

ニットをコラボ展開

多様な燃糸で差別化

備後燃糸（広島県福山市、光成猛社長）は、独自技術の「水燃り製法」

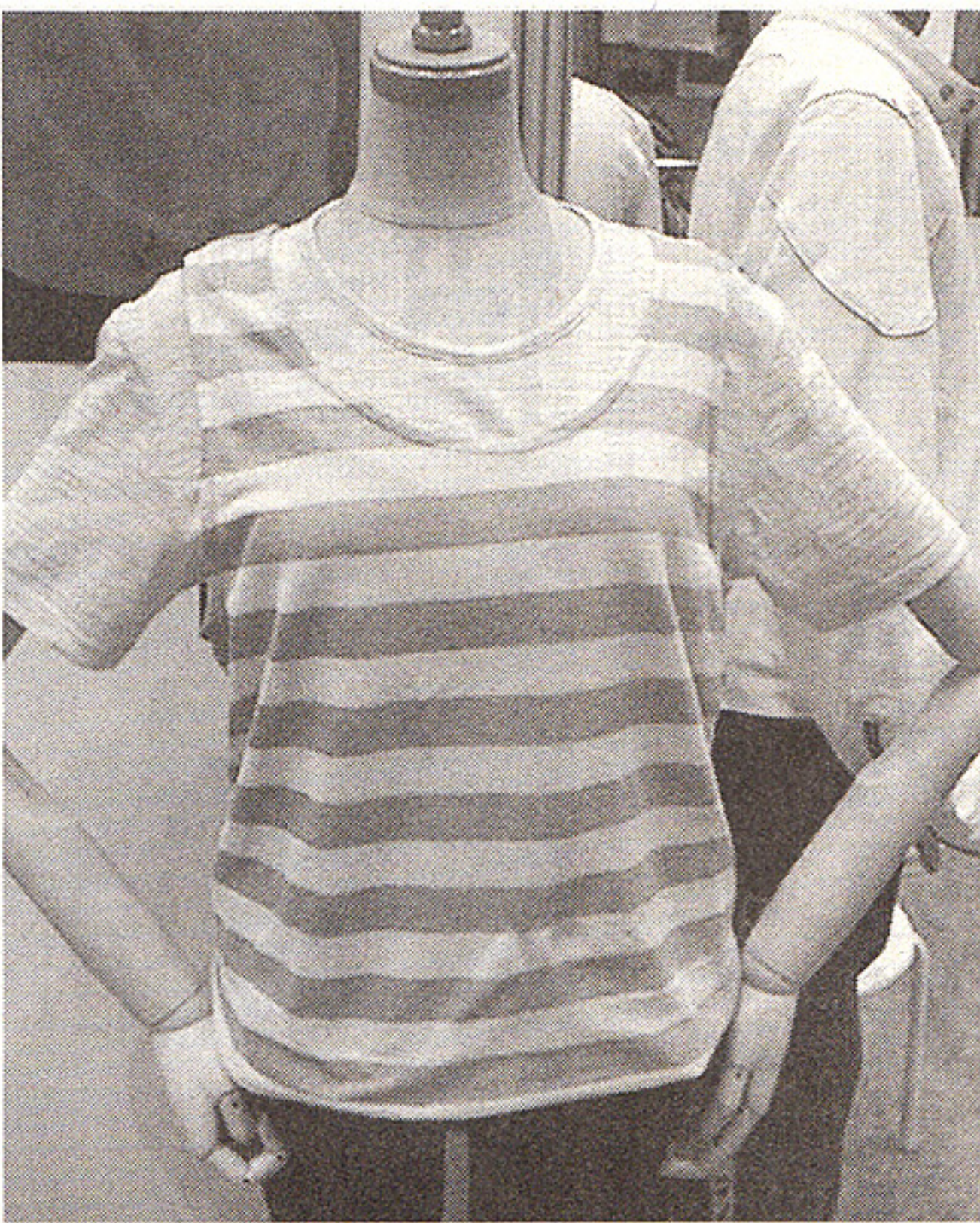
による和紙糸をニットに展開を始めた。

「スカルジーンズ」を展開するファブフォー（東京）が染色のシオンテック（東京）、

オー」に備後燃糸も参画。3月に開催した「ジャパ・ベストニットセレクション2009」にも製品を出展した。

にとらわれずに様々な分野に進出したい意向だ。燃糸技術は綿糸とウール糸、和紙糸と綿糸など2種類から8種類の糸を1本の糸にすることができ

るため他社にない差別化糸の開発が可能。「テンセル」やストレッチ糸、合繊など含めて様々な糸の組み合わせを提案している。



ク（東京）、ニットの森下メリヤス工場（和歌山）、縫製の中橋莫大小（東京）と組み立ち上げたプロジェクト「サステイナブル・バイ・ファブフォー」

和紙糸のニット製品
「サステイナブル・バイ・ファブフォー」は、和紙糸を100%タイプと、編み方により外側が和紙糸、内側がオーガニックコットンになるタイプなどを提案している。

備後燃糸は和紙糸の拡販に努めるとともに、枠

備後燃糸は和紙糸を100%タイプと、編み方により外側が和紙糸、内側がオーガニックコットンになるタイプなどを提案している。